6　医療機関で補助療法として行うアロマセラピー
（帯状疱疹や喘息に対する補助療法）

○川端一永、新宮和子、西　亜津子、川人　紫
カワバタクリニック（ペインクリニック）

欧米では既に医療機関にて代替医療の一つとして行われているアロマセラピーだが、日本では宣伝のみが先行し無資格治療を助長している感がある。

今回、当クリニック（ペインクリニック）にて現代医療の補助療法としてアロマセラピーを行い著効した症例があったので報告する。

症例１）６８歳男性、帯状疱疹痛により発症後３週間して近医より当院紹介受診。受診時、左臍部～背部にかけて一部水泡を伴った帯状湿疹が見られた胸部硬膜外ブロックを施行して痛みのコントロールを行いながら、アロマセラピー（精油の塗布療法：サノフロール・ラバンサラ・アロマティカ0.2ml、サノフロール・ティーツリー0.2ml、サノフロール・ペパーミント0.1mlをホホバオイル１０mlで希釈して）を併用した。治療開始から７日目に湿疹は大部分消失しPHNに移行することなく治療を終了した。現行の保険法では帯状疱疹は発症から１週間以内しか抗ウイルス剤の投与が認められておらず今回の様に重症で依然水泡形成があり活動期と考えられる場合には治療に苦慮する。アロマセラピーは安価に行えて効果も期待できるので有効だと思われる。

症例２）３５歳女性、気管支喘息発作でアロマセラピーを希望し来院。診察時、呼気吸気時共にラ音を聴取。アロマセラピー（サノフロール・ユーカリ・デービス0.1ml、サノフロール・ニアウリ・シネオール0.2ml、サノフロール・ラベンダー0.2mlをホホバオイル７mlにて希釈し前胸部と頸部に塗布）を行った。１０分後より呼吸困難が消失し深呼吸時のラ音の聴取のみとなり３０分後にはすべて消失していた。

その他、下肢静脈瘤や外陰部湿疹などへの有効例も合わせて発表する。